

すぐ着られる きものと帯

おはしりを縫い上げたきものと、胴とお太鼓の部分を分けた二部式の帯の着方は、浴衣よりも簡単です。裾丈を決めて腰ひもを締める、おはしりを整理する、長い帯を結ぶ、という気を遣う面倒なプロセスがないので、まるでラップドレスにベルトを締める感覚で、ひとりでさっと、きものが着られます。しかも、着崩れしにくいのもうれしい点です。



① 普通に仕立ててから、おはしりを上げた状態に縫ってあるきものは、手早く着たい、普段着や旅行着に便利。体型が変わったり、通常の着方で着たい場合は、糸をほどけば元の形に戻るので安心です。



二部式の帯

胴部と、手先を縫いつけたお太鼓の部分に分けた二部式の帯。両端にひものついた胴部を体に巻き、帯枕でお太鼓の形を作り、背中につけるだけで、仕上がります。



② 半衿をつけた長じゅばんを着てから、きものはおひき、背縫いが背中心に来るように合わせてから、下前(自分から見て右側)を体に巻きます。身幅が広い場合は、脇で前に折り返しておきます。



③ 下前を押さえながら上前を重ねます。上前幅が、右の腰骨の位置になるように合わせます。襟(つま)先を上げた状態でおはしりを上げてあるので、腰ひもは不要です。



④ 半衿が1.5センチぐらい衿もとで出るように衿合せを整えてから、アンダーバストの位置に胸ひもを当て、後ろで交差させて前で2回からげて、端は両脇にはさみ込みます。

すぐ着られるきものと帯



⑤ しわやたるみは脇に寄せます。伊達締めを当て、後ろで交差させて前でからげ、端は両脇にはさみ込みます。きものが着られました。



⑥ 胴の部分を半幅に折り、「わ」が下になるように持って一巻きします。胸側をゆるめに、腹側をきつめにするのが、苦しくない巻き方のコツ。



⑦ 二巻きめで、前に絵柄が出るようにします。うまく出ない場合でも簡単にずらして調節できます。帯と帯の間に帯板を入れます。



⑧ 端についたひもを、後ろから前に回して、帯の下側できゅっと結び、端は帯の下に入れ込みます。



⑨ お太鼓の部分は、帯揚げをかけた帯枕を裏側に当てて上端を折り返し、お太鼓の山を決めます。そのまま背中に回し、帯枕を背につけて前で結びます。帯揚げは仮結びにしておきます。



⑩ お太鼓の大きさを決め、余ったたれをお太鼓の下に入れ込み、たれの長さを決めます。お太鼓に縫いつけてある手先をお太鼓の中に通します。



⑪ 帯締めを、手先を入れた方向からお太鼓の中に通し、前でしっかりとゆるまないように結びます。仮結びにしてあった帯揚げをふんわりと結び直せば、お太鼓の帯のでき上りです。

◎ 日 齋 藤 ぎもん